

介護福祉実習（参加）記録様式

介護のチェックリストの目的とチェック項目及び観察時のポイントについて

（１） 介護のチェックリストの目的

介護は、生活全体を見るため非常に項目数が多く 120 項目あります。内容的には、ADL や IADL はもちろんのこと、生活環境・対人関係・家族関係・QOL 等多岐にわたります。介護福祉専門職として、以下のような項目の観察視点は持っていて欲しいです。そして、正確にチェックしないとアセスメントが正しくできなくなります。

（２） チェック項目及び観察時のポイント

① モーニングケア

人の１日は、朝の洗面・整髪に始まり、鏡に自分の顔を写し身嗜みを整えてスタートする。肌の手入れや髪に櫛をいれる人は生活に張りを持っている。鏡を見なくなると生活意欲が稀薄になりやすい。

自分でできない人には、ヘルプの手を差し延べなくてはならない。要介護のレベルを把握し、できない部分を補い“きちんとできているか”というところまでチェックすることが大切である。

② 口腔ケア

この項目は、口腔ケアの状況を報告する部分である。

③ 食堂・ホールへの移動

食堂・ホールへの移動や家屋内の移動ができる人なのか、行っているのか等をチェックする項目である。

④ 食事・間食

食事や間食について、食べている状況や摂取量などを把握する項目である。これらは、医師・栄養士・看護師などの健康を守る職種にとって把握しておきたい事項である。結果により、薬の処方や補食、食事指導などのケアプランに影響を与える。

間食の管理を自分でできない人がいたり、古い食品を抱え込んでいる高齢者もいるので、注意して見守る必要がある。

⑤ 排泄・後始末

排泄の自立度や後始末についてチェックする。

⑥ 入浴・清拭

入浴や清拭の状態のチェックを行う。

⑦ 着替え

衣服の着脱についてチェックを行う。

⑧ 掃除・整理・整頓・洗濯

これらの項目は、日常生活の関連動作として行われる項目であるが、生活環境を整え清潔な衣類を着用できているかについてチェックを行う。

⑨ 床離れ・臥位・入眠状況

この項目は、基本動作とは別の視点で活動や睡眠、体位の交換の必要性等について評価するチェック項目であるが、アセスメントの際に必要な項目として設けている。

⑩ 対話・交流・気分

他の人との対話や交流は、人間社会には欠くことができない生きがいに繋がる生活行動である。人との触れ合いが少なくなると、意欲減退や健康不良に発展しかねない。

気分の変動や他者への迷惑行為は、対話や交流に影響する。これらの項目の結果により、個別なケアの必要性の検討を行う。

⑪ レクリエーション・行事

生活場面で楽しみが提供できているか、参加しているかなどをチェックする。参加が少なければ、好みの把握やレクリエーション内容を検討する必要がある。

⑫ 趣味・余暇の活動

QOL の項目で、行事以外に自分で趣味を持ったり、余暇に何らかの活動を行っているか等について把握する。ここでは、自分の部屋で行うレベルの小さな趣味とか、余暇の利用等を評価する。

⑬ 買い物・外との交流・外出・外泊など

QOL の項目であるが、ここでは外出や買い物など施設外での、地域や社会での行動や活動についてチェックを行う。

出典

津田祐子著 「チームでつくる施設ケアプラン」 津田式活用法 45-53p. 2006.
中央法規出版